

令和3年2月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

ワクチン接種対策室設置式、新型コロナウイルス感染症の対応状況、久慈市市制施行15周年記念式典・市民大会、北三陸くじ冬の市などについて市長から報道機関にお知らせしました。

□ 記者との質疑応答

記者： ワクチン接種の実施にあたり、現時点の課題を教えてください。

市： 医療関係者には県が担当して接種を先行して行うこととなっている。市は65歳以上の高齢者の接種から始めるが、対象者は1万1千人ほどになる。2回の接種を6週間以内に終わるように指示されている。ファイザー社のワクチンに対応する冷凍庫が3月に1台が届くと聞いているが、2台目以降はまだわからない。また、どの会社のワクチンが来るかも決定されていない。このように情報が少ない中でもあり、市として、集団接種だけで行うか、クリニックにも参加いただけるか、調整がとれていない状況である。国からはクーポン券を発行して、接種希望日時をとるようにとあるが、調整だけでもかなりの事務量になる。あらかじめ、接種予定日をお示しして調整する方法も考えていかなければならない。会場は市民体育館やアンバーホールが考えられるが、会場をはじめ、接種日程、医師や看護師の確保も必要になり、これから準備することになる。次は、基礎疾患がある方が接種対象になる。市にはデータがなく、申請に基づき接種することになると思うが、漏れがないように進めなければならない。不確定なところが多いが、事務を進めながら対応したい。

個人開業のクリニックの医師は、休診の日のみ、接種に対応することになる。県立病院でも医師や看護師の確保が必要になる。問診も予想したより時間がかかるようである。人手が必要であり、事務職員にも受付などを担当してもらうようにする。本日の部課長会議では、ワクチン接種は最優先の課題なので、協力するよう話をしている。

記者： クーポン券の発送はいつ頃になるか。

市： 3月中旬には発送できるように、2月8日の臨時議会に接種関係の補正予算を提案する。議決後、クーポン発行に係るシステム改修を行う。まだ、クーポン券と併せて問診票を同封するものか、厚生労働省から示されていないので、早く方針を出してほしい。

記者： 今回、ワクチン接種対策室に配置された職員は保健師が含まれているか。

市 : 保健師を1人配置している。

記者 : コロナの影響を受けた方への支援は、これまでも様々な対応策をしてきたが、今後はどのような分野の支援が必要と考えているか。

市 : 収入減の事業者に補填の支援策を行ってから、だいぶ時間が経っている。生活困窮者への貸付金も少しずつ増えてきている。当市は緊急事態宣言の対象区域ではないが、宣言の影響で飲食店への来店が減っている。飲食店のみでなく、コロナの影響を受けているところに漏れがないように支援したい。

記者 : 久慈地域が環境省の洋上風力発電の調査事業に採択された。市では促進地域を目指すにあたり、課題は。

市 : 久慈市の場合は条件的に浮体式になるため、工事工法を含め調査検討しなければならない。

また、電気をつくってどのように送電するか、送電網の整備を進めたいところであり、経済産業省に要望していく。

これから4年間の調査事業が採択されたが、2、3年のうちに、国に促進地域として申し入れできるようにしたい。また、組立基地が必要となるので、埋め立てなどを含めて場所の確保に取り組む必要がある。経済効果や雇用が見込まれるので、促進地域として採択されるよう実現していきたい。

記者 : おさがりランドセルの贈呈は贈呈式を行うか。

市 : 2月15日から募集を行い、贈呈式ではない形で希望者にお渡しする。

記者 : 市ではどのようにSDGsの取組みを進めるか。

市 : 宣言をするかどうか検討すべきだが、現時点でも、市の施策は、SDGsを意識して事業展開をしている。再生可能エネルギー、格差の是正、女性の社会参画など取り組んでいる。

来年度から始まる市総合計画後期基本計画はSDGsの考え方を取り入れて策定した。市の事業はSDGsの観点を取り入れて展開していくことになる。市民にもPRしたい。